

北海道浮魚ニュース

平成 15(2003)年度 22 号 (通巻 No.164)

2003 年 10 月 31 日

北海道立水産試験場

道東太平洋サンマ・マサバ漁期後調査結果

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ・マサバ漁期後調査の結果をお知らせします。今回の調査は、主漁場が三陸以南に移った後、道東沖にはどの位のサンマやサバ類が分布しているか、その組成(大きさ)はどうなっているかを明らかにするために行いました。また、昨年は荒天により同調査を十分に実施できなかったため、一昨年と同調査と CPUE や体長組成の比較を行いました。

調査期間: 2003 年 10 月 27 日 ~ 31 日

調査海域と調査点(図 1): 道東太平洋の 6 調査点(漁獲調査は 3 点)

調査方法: 9 種類の目合(22,25,29,37,48,55,63,72,82mm)の流し網を用いた漁獲試験

漁獲尾数(表 1)

・サンマ

流し網によるサンマの総漁獲尾数は **1,313 尾** で、沖合(ST.C)で多く漁獲されました。CPUE*(流し網 1 反あたりの漁獲尾数)は **31.3 尾** で、一昨年に実施した同調査(**17.4 尾**)を大幅に上回りました。

* 流し網目合 22 ~ 48mm の漁獲尾数から算出

・サバ類

流し網によるサバ類の総漁獲尾数は **12 尾** で、沿岸寄りの ST.F のみで漁獲されました。なお、一昨年と同調査ではサバ類の漁獲はありませんでした。

体長組成(図 2、3)

・サンマ

調査全体では、**30cm** 台を中心とした大型魚と **24cm** 台を中心とした中型・小型魚が主に漁獲されました。調査点別でみると、ST.A では主に大型魚が、ST.C では大型魚および中型・小型魚が、ST.F では主に中型・小型魚が漁獲されました。

例年、この時期(10 月下旬)は、大型魚の多くは三陸以南に南下してしまうため、道東太平洋には後続群の中型・小型魚が主に分布しています。例えば、一昨年に実施した同調査の漁獲物は、全体の 9 割以上が中型・小型魚で占められていました。しかし、今回の調査では大型魚も多く漁獲されました。この理由として、漁期前に大型魚を主体としたサンマが例年よりも沖合(東側)に偏って分布していたため(浮魚ニュース:平成 15 年度第 12 号、No.154 参照)漁期後半になってからも沖合から大型魚の加入が続いているためではないかと思えます。

・サバ類

流し網で漁獲されたサバ類の体長範囲は **19 ~ 23cm** 台で、モードは **21cm** 台にみられました。

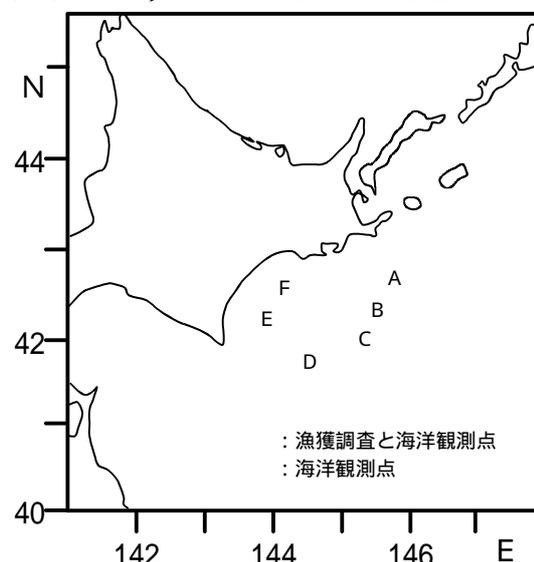


図 1 サンマ・マサバ漁期後調査点図

表1 サンマ・マサバ漁期後調査結果一覧

調査点	位置		水温 (°C)			主要魚種の漁獲尾数			
	北緯	東経	0m	50m	100m	サンマ	サバ類	マイワシ	カタクチ
A	42-40	145-30	10.7	4.8	2.6	180	0	0	4
B	42-20	145-15	10.2	4.0	1.8	-	-	-	-
C	42-00	145-00	11.4	3.0	10.9	1,073	0	1	5
D	41-55	144-30	10.3	3.9	1.9	-	-	-	-
E	42-10	144-15	9.5	3.9	2.3	-	-	-	-
F	42-29	144-31	9.0	6.9	4.5	60	12	0	979
合計						1,313	12	1	988

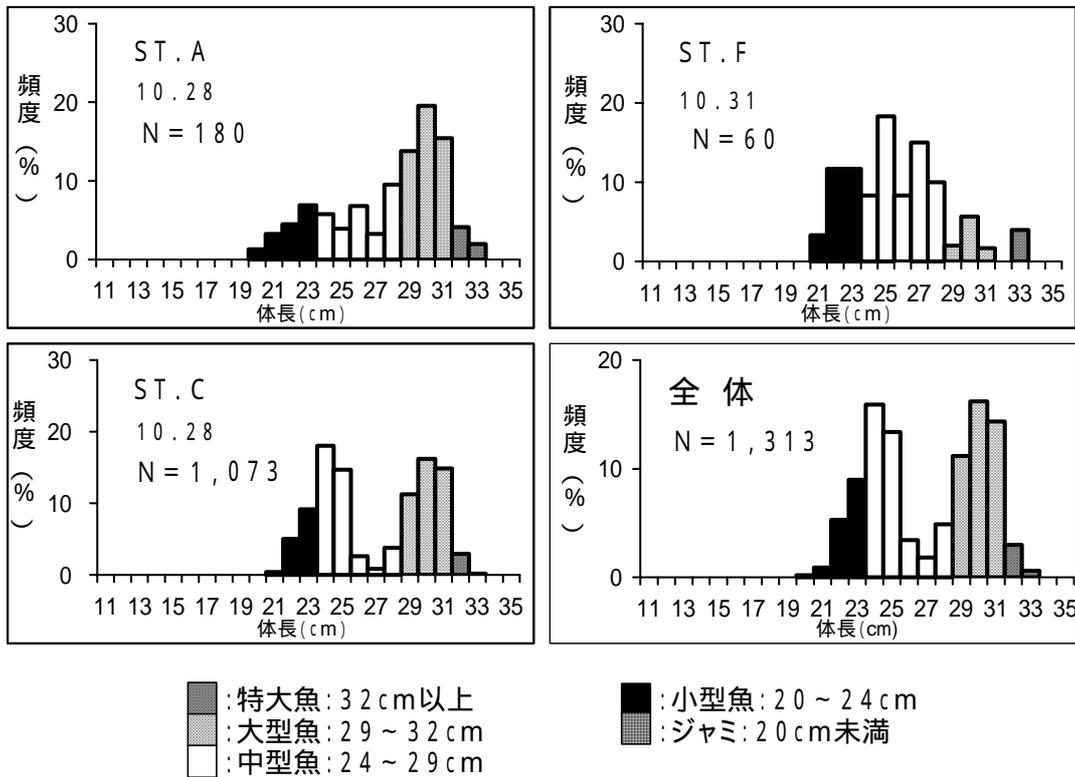


図2 流し網で採集したサンマの体長組成 (Nは漁獲尾数)

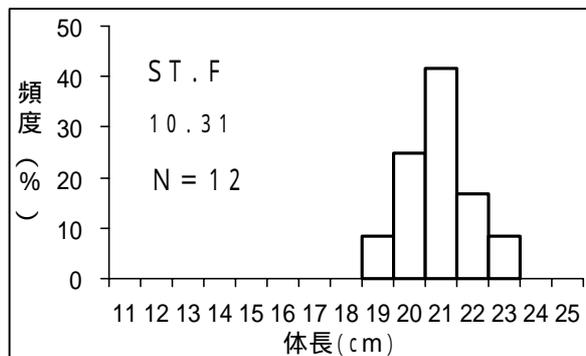


図3 流し網で採集したサバ類の体長組成 (Nは漁獲尾数)